

LOS ROMEROS

“The Royal Family of the Guitar”



1994 San Diego, CA

ロメロ一家に仕えて早や 25 年、入門して以来四半世紀もの間彼らと付き合ってきた。

最初はただの門下生だった私を次第に可愛がってくれるようになった時には入門してから既に何年も経過していた。そしていつの日か大巨匠からも直接指導を受けられるようになると、彼らもより近しく接してくれるようになり、3人の息子さん達（セリン、ペペ、アンヘル）がそうしていた様にいつの間にか私もマエストロのことを「パパ」と呼ぶようになっていた。

1996年5月セレドニオ氏の葬儀に参列していた日本人は私だけであった。それがいかに重要かつ貴重な体験であったのか初めて気付いたのは、後にある人に言われてからである。見栄や虚栄のために一家と関わってきたのであれば、彼らから可愛がられることも一切無かっただろう。入門当時から変わらないのは、セリンやペペにとって私はいつまで経っても「小坊主」のままであるということだ。これからもずっとそうだろう。

お互い少年の頃から知っているペペ Jr.も今や名工と呼ばれるに恥じない楽器を生み出し、その素晴らしさを伝えるべく私も彼の製作したギターを愛用している。

『音楽家は口ではなく手で語るべし』というロメロ一家の教えはこれからも守っていかなくてはならない。そして彼らから得たものは、教えにあるよう演奏を通して私がこれから一生をかけて伝えるべき事であるだろう。それは忠義を重んじ門下生としてロメロ一家に永く仕えてきた私がどうしてもやらなければならないことであり、また私にしかできないことなのかもしれない。そのためにも私はパパの遺した曲を、パパ本人とその息子達から教わった技法で、孫ペペ Jr.の作る楽器を使って演奏し続けるつもりである。この三世代に亘るロメロ一家との直接の関わりは、伊達や酔狂だけで続けられる筈もないのだ。

ある人に言われた『セレドニオ氏の葬儀には日本を代表して参列してきた』という事の重大さを、今になって理解し始めた気がする。そしてその葬儀から 15 年後、ペペ Jr.の 200 台完成を祝うイベントには「日本からただ一人」の自覚を持って参加してきた。（下記参照）

January 4, 2013

Del Mar, California

It was shortly before he passed away that my father and I were sitting in his studio when we heard one of my father's compositions beautifully played, the sound coming from the garden below.

My father looked out of the window and saw my brother Celin holding a master class in the garden and a young Japanese student was playing for him. My father was so moved by this experience that he opened the window and blessed the guitarists that were in this intimate group and all guitarists who love the guitar with a pure heart.

I remember this as a mystical experience. That young Japanese student was Yoshi Oshima.

It fills my heart with joy that on the 100th anniversary of my father's birth Yoshi is dedicating his recitals to the memory of Celedonio Romero.

With fondness,



Pepe Romero

2013年1月4日、カリフォルニア州デル・マーにて

父と私が部屋にいと父の作品が達者に演奏され階下の庭からその音色が聞こえてきたのは、父が他界する僅か前のことでした。

父は窓の外を眺め、私の兄セリンが庭で開いていた合同のレッスンとある若い日本人生徒が彼に演奏しているのを目にしました。父はこの様子にあまりに感動し、窓を開けこのごく親しい集まりにいたギタリスト達そして純粋な心を持ってギターを愛する全てのギタリスト達に神の恵みを祈りました。

神のお告げによる体験として私はこのことを覚えています。その若い日本人生徒が大嶋芳だったのです。

父の生誕 100 周年を記念し、セレドニオ・ロメロの思い出にヨシがリサイタルを捧げてくれることに私の心は喜びで満ちています。

慈しみを持って

ペペ・ロメロ

(2013年3、4月 「セレドニオ・ロメロ 生誕 100 周年」公演プログラムに寄せられたメッセージ)

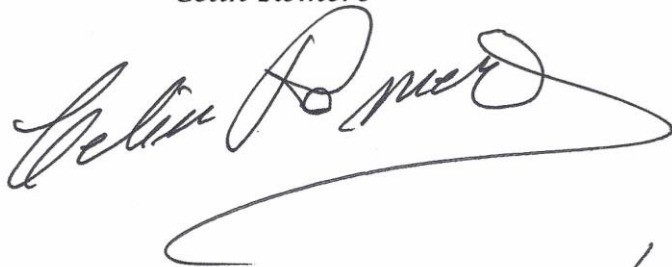
Homenaje a Celedonio Romero

We are deeply touched and honored to have the wonderful guitarist Yoshi Oshima play this guitar recital honoring the memory of our beloved father, el gran maestro, Celedonio Romero, on this 15th anniversary of his passing.

We know our father loved Yoshi very much and enjoyed very much listening to his playing. We join Yoshi in singing praise to the man, the musician, the composer, the guitarist who has influenced us so greatly and inspired so many guitarists throughout the world.

The spirit of our father will always be with you.

Celín Romero



Pepe Romero



セレドニオ・ロメロを讃えて

この度の没後 15 年に際し、我等の愛すべき父親・偉大なるマエストロ：セレドニオ・ロメロの思い出を讃え、素晴らしいギタリスト大嶋芳がこのギターリサイタルを催してくれることに私達は深く感動を受け光栄に思います。

私達は父がヨシをこよなく可愛がり、彼の演奏を聴くのを非常に楽しんでいたことを知っています。私達に多大な影響を与え、そして世界中の多くのギタリスト達が感銘を受けた人物・音楽家・作曲家・ギタリスト（であった父）へ私達もヨシと一緒に讃美を送ります。

父の魂は常に君のもとにあるでしょう。

セリン・ロメロ

ペペ・ロメロ

（2011 年 5 月 「セレドニオ・ロメロ 没後 15 年」公演プログラムに寄せられたメッセージ）

To my very dear friend Yoshi
who has this very special day
as in many others made me

To the memory of

Celedonio Romero

(March 2, 1913—May 8, 1996)

I feel such joy.
I am very proud of you.

~10th year commemoration~



"I want to thank Yoshi Oshima on behalf of the entire Romero family for the tribute you pay to our father, Celedonio Romero on the 10th anniversary of his death. I know that he thought very highly of you and his spirit will be with you on this occasion. I can clearly remember the beautiful day when you were playing his compositions for my brother Celín in a master class we held in the backyard of the house of our father. After the master class was finished Celedonio came to the window and blessed all of you. This was a very touching moment for all of us and I will never forget it."

PEPE ROMERO

直筆文：

このとても大切な日に、他の多くの日々同様
このような喜びを私に感じさせてくれる信愛なるヨシ、
君を非常に誇りに思う

没後 10 年に際し我等の父セレドニオ・ロメロを讃えてくれる大嶋芳に、ロメロ一家を代表して感謝します。
父は君のことを高く評価しており、この機において彼の魂は君のもとにあるでしょう。父の自宅の裏庭にて開いた
マスタークラスで君が私の兄セリンに父の曲を弾いていた佳き日のことを私は鮮明に覚えています。レッスン終了
後に父セレドニオは窓際まで来て君達全員に神の恵みを祈りました。これは私達全てにとって非常に感動的な瞬間
であり、私はそれを決して忘れることは無いでしょう。

ペペ・ロメロ

(2006 年 5 月 「セレドニオ・ロメロ 没後 10 年」公演プログラムに寄せられたメッセージ)

Pepe Romero Jr.

ペペ Jr.と初めて会ってからもう20年以上になる。初対面からしばらくは大して面識があった訳でもない。それが今では頻りに連絡を取り合い、毎年何度も現地まで会いに行っている。ペペの楽器はこれまでにかなりの数を本人から直接購入しているので「上お得意様」と呼ばれてもいいのだろうが、私はあくまでも演奏家であり「販売人」などを名乗るつもりもその必要もない。これも『音楽家は手で語るべし』という一家の教えがあるからである。それよりもペペの作った楽器を演奏し続けることで彼らから得たものを伝えるのが門下生としての重要な任務なのである。それに付随して私のペペ Jr.ギターコレクションは今後も増えていくことだろう。

お互い出会った頃から随分と身分・立場も変わったが、ギターの製作を始める前の少年の頃から知っているペペがギター製作者として進化していく過程にわずかではあるが携われるのもまた格別な思いである。

ペペ Jr.が200台目の楽器を完成させたのを祝う記念イベントが2011年9月4日(日)米国カリフォルニア州サンタ・モニカのGSI (Guitar Salon International) で行われた。その模様は日本から唯一の参加者としての責任を持って〈現代ギター誌2011年12月号〉でレポートにて報告させて頂いた。今後もロメロー一家の正確な情報を提供していきたいと思っている。これも永年仕えた門下生の務めであろう。

無論その場に居なかった第三者が後にネット上で知り得た情報を語ったところで全くの無意味であるのだが・・・。



ペペ父子が共有するコレクションのカタログ集を発行する運びとなり、現地を訪れる度に彼らと構想を練ってきた。専門の写真家による楽器の撮影はかなり値が張ったが、費用はペペ Jr.と折半した。ちゃんとした作品集に仕上げるためには当然の出資であり、著作権も含め撮影された全ての写真をペペと私で所有できることからすればその価値はあるだろう。いくら貴重な写真を持っているとは言え、この作品集以外で私がそれらを勝手に使うようなことも無い。ましてや何の関係も無い第三者が盗用するなど決してある筈も無いのだが・・・。

PEPE ROMERO



GUITAR COLLECTION 1997 - 2012

www.peperomero.com/luthier

そして2013年3月、門下生として私が携わる最大の節目となるであろう「セレドニオ・ロメロ 生誕100周年」に何とか間に合わせてカタログ集を完成することができた。

大師匠の偉業を讃えるに相応しい任務を遂行できたのも、ロメロ一家への恩義であろう。

見栄や虚栄のために一家と接するような輩には成り下がりたくないものだ。伊達や酔狂では門下生など務まる筈も無いのだから。